



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

## 君たちに任せる！

こんな経験はないでしょうか。

私の話ですが、中学の時、とても仲の良い友人がいました。ある時、その友人が、芸人のツッコミのようなノリで私の頭をはたいたのでした。もちろん友人は、親しみを込めた行為だったと思います。でも私は、たまたま虫の居所が悪かったのか、キレてケンカになったのでした。その時からその友人とは不仲になって、私たちは別々の高校へ進み、その後会うことはありませんでした。今になって考えると、私は友人のその行為だけが嫌だったのに、友人の全部を嫌いになるような考えをもってしまいました。頭をはたく行為に関して、はっきりとソフトに「それは嫌だからやめてね」と伝えていれば、大切な友人を失わずに済んだのではないかと後悔しています。

私は、この後悔から、「全部で嫌わず、部分で嫌う」という方法を学びました。

人との関係だけでなく、みなさんの日常には、似たようなことがたくさんあるのではないのでしょうか。例えば、「数学が嫌い」というようなマインドをこのことに当てはめてみましょう。

「数学が嫌い」というように、全部が嫌いになってしまうと、もうそれでお手上げになってしまいます。よくよく考えてみると、「方程式のような計算は比較的得点できるけど、図形や関数が嫌い」のように、冷静に分析してみて、具体的な部分がわかれば対処はできるのです。このように、「全部で嫌わず、部分で嫌う」ことにつなげることができます。大人は、生徒にこのような考えを伝え、考えさせることが大切だと思います。それが、成長を促すことにつながると思います。

また、こんな経験はないでしょうか。

学校生活や苦手な勉強に対して、「なんか疲れる」と思ってしまったたり、そこに、気の合わない友人との付き合いも加わって、とても疲れを感じたりします。こんな単調な毎日の繰り返し嫌で、劇的な変化を期待してしまい、単純に単調を悪としてしまいます。でも、何かを成し遂げる時は、必ずそこにある種の単調さが存在します。テストの得点、志望校の合格、部活動の良い結果、資格の取得などです。それらのすべてに共通しているのは、その背後には、とても単調な積み重ねが存在しているということです。そのことを「実りある単調」といい、それを受け入れることがとても大切なんです。

「実りある単調」にも段階的プロセスがあります。こんな経験はないでしょうか。

「あなたに任せます」と言われたという経験です。「何事も経験」という言葉がありますが、いきなり「任せられる」ことはなかなかありません。その理由は、その人の成熟度に合わせることになるからです。ざっくり言うと、経験のある人には「委任（任せる）」、少し経験のある人には「問いかけ（コーチング）」、全くの初心者には「教える（ティーチング）」のような感じになります。このことは、みなさんの1年間に置きかえて考えることができます。1学期は、「ティーチング」が多いのですが、少し経験を積んだ2学期は「コーチング」になり、しっかり積み上げてきた3学期は「任せる」になっていくということです。このことを教師、生徒共に意識することが、みなさんの成長につながります。

みなさんの3学期は、「君たちに任せる！」と言われる学期にしないでほしいのです。みんなで、いいクラス・学年に仕上げよう。

（学校長 重枝 一郎）

